

第8回赤穂海浜公園管理運営協議会 議事録

日時：令和5年12月18日（月）14:00～16:00

場所：赤穂海浜公園オートキャンプ場会議室

出席者：別添出席者名簿参照

配付資料：資料1 第7回協議会での意見と回答

資料2-1 リノベーションの推進について

資料2-2 リノベーションの推進に向けた意見募集 提出された意見等の概要

資料3 リノベーション実施計画

資料4 プレーパークの実施報告

資料5 プラットフォーム試行結果

資料6 デイキャンプ等実施のご報告

資料6-別紙 シーサイドデイキャンプ&手ぶらで楽しめるBBQ アンケート集計結果

参考資料1 第7回管理運営協議会 議事録

1. 開会/事務局

開会挨拶 赤穂海浜公園管理事務所所長

省略

会長

省略

2. 赤穂海浜公園管理運営協議会について/事務局

(1) 第7回協議会での意見等、議事録の公表/事務局

・資料1、参考資料1を説明

会長

広報について、バナーを付けないのか。

事務局

バナーに関しては、すぐに対応するのが難しいため検討中である。

会長

公園にとっては、大きな変化であるため、どこに表示されているのか分からなくなってしまうように、バナーを付けて固定できると良いと思う。

委員

自転車の駐輪場について、駐輪場を整備したとしても、アクセスできないと意味がないと思うので、西側駐車場の出入口から海岸の方へ行ける自転車道などを検討していただきたい。

事務局

今後、検討していく。

3. 議事

(1) リノベーションの推進に向けた意見募集の結果報告/事務局

・資料2を説明

会長

民間事業者が、導入施設に関する意見通りに提案すれば、評価の点数が高くなるものではない。寧ろこれらの意見を超越する良い案や、民間事業者のノウハウを聞けると良い。民間事業者には、これらの意見を参考として見ていただく。

今まで出た意見を参考に、リノベーションの推進に向けて留意してほしい意見を本日、皆さんからいただければと思う。意見を出せば実現するというのではないが、新しいアイデアのヒントになる。例えば、協議会で挙げた意見もここに盛り込むとすれば、自転車でも入れるような動線や、自転車の駐輪場の整備も考えてほしいということも意見の1つになると思う。

事務局

前回、唐船海岸へ行けるようにしてほしいというご意見があった。海岸と公園で区域が分かれており、資料に記載しているのは、公園区域に関する意見のみになっているが、海岸区域のこともあわせて検討していこうと考えている。

会長

自転車が通れるようにすることや、自転車の駐輪場は公園内ではないのか。

事務局

公園内は、原則自転車の乗り入れが禁止となっているため、海岸側の通行を検討している。

委員

海の方にロープが張っている所がある。整備をして綺麗になっても、ロープが張ってあると見栄えが良くないのではないか。

事務局

ぬかるみがあり、腰まで入ってしまうため、危機管理としてロープを張っている。

委員

綺麗にしても、写真を撮ろうと思う時にロープを外したくなるので、そのあたりも検討課題になるかと思う。

会長

海との一体化は賛成という意見もある。リノベーション後に、海まで行けるようになると良いと思う。

事務局

唐船海岸のぬかるみを定期的に観察しており、今は、西側はロープが無い状態になっている。

委員

海浜公園の眺望軸になる所が、ぬかるみのためにアクセスできないというのは、齟齬があるのではないか。展望が良くなると人が多くなると思うので、対策を考えないといけないのかと思う。

委員

西側も長期間、ロープが張ってあったが、ぬかるみが無くなり、綺麗になった。元旦に歩くので、丁度良かったと思う。予算の関係もあると思うが、ぬかるみの件についてはご検討いただ

きたい。

会長

唐船海岸のことは、事務局の今後の長期的な配慮になると思うので、宜しくお願い致します。

(2) リノベーション実施計画 最終報告/事務局

・資料3を説明

会長

リノベーション実施計画は再整備の内容について、早かれ遅かれこのようにしていこうという大まかな計画を作られるという話である。海側の方では、できるだけ早く予算をつけて新しいものを作る。木の本数を整理することは、時間をかけながらゆっくと目標の本数へ減らしていく。計画によって時間の幅はあるが、このようなことを目標にしていきたいということである。

委員

どのような基準で伐採木を選択されるのか。インスタ映えがする場所の木が切られると逆効果になる場合もある。

事務局

どの木を伐採するか決める際には、2つの方法がある。1つは、造園的手法がある。日本庭園では、鳥が種を運び木が生えて、当初のデザインコンセプトが崩れてきている場合、デザインした時の考え方に戻すために伐採するという方法もある。また、今の使い方に適したデザインにするための伐採もある。これから実施設計の段階で、細かくチェックしていく必要があると思う。

もう1つは、伐採すると光が一気に入って環境が変わり、周りの樹木が枯れることもあるので、生育状態の事例調査や、樹木医などの専門家に相談しながら決めていく方法があると考えられる。

会長

家であれば、設計図通りのものができることが初めから分かるが、大きな工事などは、方針を決めて、現場を見ながら検討していく。今回は考え方を決めたいということであると思う。

事務局

最近では、3Dスキャナー等で、映像を確認しながら進めていくという手法もある。中低木の整理は進めていけば良いと思うが、シンボルとなる高木を扱う際は、整理前後がどうなるのを見るのが良いと思う。伐採してしまうと元には戻らないので、最近では、伐採することを周知してから実行していくという手段がよくとられている。

委員

滋賀県のメタセコイア並木のように、樹木がインスタ映えスポットになることがある。公園の駐車場の入口にメタセコイアのような木があり、下を綺麗にすれば写真映えするのではないかと思った。広島では、アッケシソウが真っ赤になる時期は、観光スポットになっている。キッチンカーやガチャガチャを置くなどのことをしなくても、タデやアッケシソウが広がれば、それだけで沢山の人が来ると思う。ぜひ、塩性植物の所を頑張ってください。

事務局

関西で、海浜性の環境を持っている公園は少ない。それが評価されると、環境や環境学習、観

光の面でも良い効果が期待されると思う。

委員

民間の方からもアイデアをいただいているが、塩性植物の所の整備が活かされて人が来てこそのことだと思う。

委員

公園内で干潟環境を持ち、活用できる場所は少ない。大阪の南港野鳥園は、干潟があり野鳥の楽園となっているが、離れた所から観察するだけで、人が入っていける場所はない。

植物は植栽などで入れるかもしれないが、干潟の動物であるエビ・カニ・貝類は、自然侵入を待つことで非常に良い環境ができる。それらを子どもたちが捕まえて遊べる場所になれば良いと思う。

イメージ断面図で、塩生植物の生育基盤として地盤を切り下げたところが、ほぼ水平に描かれているが、非常に緩やかな傾斜地にすることで、冠水頻度の違う部分が徐々にできる。このような環境の移行帯のことをエコトーンと言う。緩やかなエコトーンを作ることで、多様性の保全に繋がると思う。海の潮位の関係を把握した上で、どのくらいの高さにするのが適しているのかを見た方が良いと思う。

事務局

潮位を計測したものは無いが、潮の干満によって赤湖・白湖の潮位に差が生じている。

オートキャンプ場の方に取水口があり、赤湖を通過して白湖から海の方に水を流している。水は千種川の河口の方から入っているが、潮位によって水が入れ替わることが困難なため、排出は強制的にポンプ4機を設けて、湖の浄化をしている。ボートの営業に支障が無いように潮位を調整しているほか、水質が悪くなって、漁業協同組合に迷惑をかけないように、水の管理を行っている。

会長

自動で水位制御できそうであるが、今の設備では難しそうだと思う。

事務局

当初、3日前後で水が入れ替わるような設計であるとは聞いていたが、現況、それはできないので、強制的にポンプで水を排出している。

委員

資料に記載されている文化軸に、赤穂漁港の名称が入っているのは内容が合っていないのではないかと。また、民活エリアになっているため、公園の中の文化軸という意味合いで書いていただく方が良いのではないかと。

事務局

漁港というのはこの地域の1つの文化であると考えている。赤穂市クラスの都市で漁港を持っているのはユニークであると思う。

会長

民活の方でも漁港などの周りの特徴も記載して、公園の特色になるような繋がり方を考えるように公募することになるのかなと思う。周りの環境は、公園の文化の1つであるので良いと思う。

委員

それであれば、目標像に赤穂漁港の話が入っていない。

事務局

赤穂漁港への眺望や動線を阻害しないくらいのことで、積極的に何かを整備するという位置づけではなく、周りの活動が意識できるような軸になればと考えている。

会長

目標像2の「多様な公園内の」を「多様な公園内外の」に書き換えれば良いと思う。どちらかに絞るものではないと思う。

委員

漁港を押し出す方が良いと思う。文化というのは、それぞれの地域の自然条件の中で、自然環境に根差した産業や生業が生まれてくるものであり、漁業というものはその最たるものであると思う。漁港の生業や公園内の塩づくりというのは、地域の特徴を活かした産業であり文化であると思うので、この軸にそれらが揃うというのは美しい計画であると思う。

次の民間活力が決まってからの話になると思うが、出会橋は、2つの湖を見下ろせる場所であり、眺望のポイントになると思うので、何かの機能があれば良いと思う。

会長

出会橋の機能については、ソフト提案に期待することになるかと思う。

具体的な整備内容については、その時期がくれば皆様に見ていただき、ご意見をいただくことになると思う。

(3) プレーパークの実施報告

- ・資料4を説明

(4) プラットフォーム試行結果の報告/事務局

- ・資料5を説明

会長

プレーパークについては、関西福祉大学の学生に沢山来ていただき、遊びながら教えながら楽しみながら、非常に良い雰囲気だった。赤穂高校についても、このような道に進みたいという高校生も来られており、非常に楽しく過ごしていただいた。

プレーパークは今年と来年は、助成金がついている。うみの会議の次回は、まだ決まっていない。協議会は県が設置しており、事例の尼崎の森の会議も県が設置している。次の指定管理の時に実施することを書き込むことになるのか。

うみの会議では、リノベーションの推進に向けた意見とは違う意見も出ている。この意見も参考資料として民間事業者に示すのか。

事務局

参考資料として入れさせていただく。

会長

プレーパークでは、こんなことをしても良いということを知っていただけると、嶽山先生以

外の人もやりやすくなるのではないか。

パークマネジメントは、イベントを沢山することがパークマネジメントであると思われがちであるが、経営と利用促進と管理が一体となるものがその公園らしいパークマネジメントである。例えばプレーパークでは、堆肥を作っている所に、カブトムシの幼虫がいっぱいいるので、管理者の方から提供いただいた。管理の中で出てくる大切な資源をどのように使っていただくか、管理者の方が使って面白いことをすることも含めて土台となるような資源・資産であると思う。そのような資源もオープンにし、使用する仕方は積極的に継続いただければと思う。イベントのやり方や内容は変わっても良いが、土台の部分は継承するのが良いと思う。

委員

うみの会議では、熱心な意見があり、僕らが考えているのとは別の視点からの意見もあった。釣りのことなど知らないことも聞いた。集まりがまたあれば、きっと集まってくれると思うので、継続していただきたい。うみの会議という名前も良いと思う。

事務局

県では、うみの会議を来年度も継続する方向で検討している。面白い提案を沢山いただいた。また、うみの会議の後に、アマモの種を植える作業を体験させていただいて、環境学習の良い教材もあることが分かった。来年は、幾つかのアイデアを実施していきたい。

会長

赤穂高校の先生からは、うみの会議が次もあれば参加したいと仰っていただいている。違うアイデアをいただいて、自分たちだけではできないことができそうであることを感じていただいていると思う。御崎でカフェをされている方からは、公園で何時間かワンちゃんと過ごせることができれば、もっと人が来てくれるのではないかという意見をいただいた。公園だけを見ていると気づかないアイデアが沢山出てくるのが、面白かった。皆と一緒に実現させていくことを前提にすると続くような気がする。やるとすれば来年度になるのか。

事務局

アイデアの実施は来年度になると思う。

プレーパークでは、今回、赤穂市の方に、広報を手伝っていただき、沢山の方に情報を届ける事ができた。引き続き宜しくお願い致します。

会長

前日まであまり参加がないと思われていたが、当日、沢山来られて、時間が足りないほどの意見が挙がった。

事務局

12月のプレーパークは、自治会の回覧板を見て来たという方もおられ、自治会の協力も大きかったと思う。

会長

開催報告はホームページに掲載されるのか。

事務局

うみの会議に関しては、赤穂民報に取り上げていただいた。赤穂市民の方は、赤穂民報を見ている方が多い。また、赤穂市さんのラインを活用してほしいという意見もあったので、連携しな

がら広報を考えていきたい。

会長

開催前は様子のイメージができないが、こんなことをしても良いのだということが分かると良い。

事務局

プレーパークに関しては、光都土木と公園のインスタグラムに実施内容を記載している。

委員

プレーパークを大学のゼミなどと連携してやっていると良いと思う。

委員

今回は希望者という形で募った。プレーパークに興味のある学生は多い。

委員

緑地公園でプレーパークを開催していたことがあり、その時は、関西福祉大学の半田ゼミと連携していた。大学のゼミや、高校の総合学習と連携して、継続していける形を作っていくのが良いと思う。

事務局

1回目、2回目ともに100名程来られていたので、継続してやっていきたい。

委員

参加者は、たつの市でプレーパークをされている赤とんぼさんに行かれている方の参加が多かったのか。赤とんぼさんは、龍野北高校の学生にお願いしていることが多い。

事務局

来られている方がどこに属している方かは分からない。

会長

関西学院大学の学生が、人と自然の博物館の近くの公園で、PTPというサークルを作ってプレーパークをしていた。サークルの場合、学生のやりたいことが変化するため、継続することが難しい。

事務局

赤穂高校には、ボランティア部があり、部活動の一環として連携していけると思う。関西福祉大学には、地域連携の部署があり、その部署で募集をしていただいているので、継続していけるのではないかと思う。1回目、2回目ともに、里うみカヤックスの清水さんが来られており、強力なサポーターになってくれると期待している。

委員

ロープの締め方は誰がされたのか。

事務局

嶽山先生がYoutubeを見て学んだと仰っていた。

委員

ロープを結ぶのが難しいため、プレーパークをしていた時は、ボーイスカウトされている方に来ていただいていた。結び方を学生に学んでもらうということも行っていた。

事務局

広報については、赤穂市の子育て支援のインスタグラムがあり、その広報をボランティアで担当しているお母さんがプレーパークに来られ、インスタグラムに載せていただいた。

4. その他

(1) デイキャンプについて/事務局

- ・資料6を説明

委員

日曜日に1日だけ見に行ったが、少し遅めに行ったためか、利用者は1組だけであった。何も無い所への集客は難しいなと思った。

委員

相生の道の駅では、牡蠣を購入して焼いて食べることができる。人が多くて入れない程であるので、牡蠣のシーズンにやれば沢山来るのではないかな。

会長

この場所に行ったからこそということであれば、この辺りの漁師さんたちがやっているようなスタイルでできれば良いのかなと感じる。

このペースで金曜日から月曜日まで継続すると儲かる見込みはあるのか。

事務局

設備投資等、実施すること自体にお金がかかるため、期間が短いと儲けるのは難しいと思う。「手ぶらで楽しめるBBQ」を行った業者は牡蠣シーズンにも実施したいとの希望があったが、海風が強いため、頑丈なテントが壊れ、撤退せざるを得ない状況であった。

会長

今回のデイキャンプ試行は、これから、このようなことを実施するかどうかの判断材料になると思う。

委員

テントが必要なのには何か理由があるのか。

事務局

衛生面を考えると、風にあおられて砂やゴミが飛んでくるため、食材に交じる恐れがあることや、急な雨天時に撤退できないことがあるため、簡易な屋根がないと営業しづらいということであった。頑丈なテントでも海風にあおられてしまうため、家屋的な基礎があるものでなければ難しいということが、今回の社会実験で分かった。

(2) 次回開催について/事務局

- ・次回は3月頃の開催予定で日程調整を行う。

令和5年12月18日(月)に開催された第8回赤穂海浜公園管理運営協議会議事録は、上記の通りであると認め署名する。

議事録署名人

会 長 赤塚 宏樹

委 員 岩崎 由美子